

2011年5月9日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤、漢方製剤など

第4回 国内医療用医薬品市場 調査結果

2019年市場予測

代謝系疾患治療剤市場は、その80%以上を占める糖尿病治療剤市場の拡大で10年比33%増の4,300億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、医療用医薬品の国内市場を2010年1月から2年かけて6回に亘り調査を行っている。その第4回目の調査を2010年12月から2011年3月にかけて行い、結果を報告書「2011 医療用医薬品データブック No.4」にまとめた。

この報告書では、高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤、解熱消炎鎮痛剤、血液関連薬剤、漢方製剤の5薬効領域の市場を分析し、今後を予測した。

< 調査結果の概要 >

薬効領域別市場

薬効領域	2010年	前年比	2019年予測	10年比
高脂血症治療剤	3,801億円	103.8%	4,130億円	108.7%
代謝系疾患治療剤	3,224億円	101.2%	4,300億円	133.4%
糖尿病治療剤	2,740億円	102.0%	3,700億円	135.0%
痛風・高尿酸血症治療剤	230億円	94.7%	320億円	139.1%
解熱消炎鎮痛剤	1,218億円	101.0%	1,194億円	98.0%
血液関連薬剤	3,422億円	100.8%	3,480億円	101.7%
漢方製剤	1,034億円	108.8%	1,580億円	152.8%

高脂血症治療剤

メタリックシンドロームの概念が定着し、高脂血症に対する認知度向上により治療患者が増えている。また、2008年から特定健診・保健指導が義務付けられたことで潜在患者が顕在化したことも、更に治療患者が増え高脂血症治療剤市場が拡大している要因である。

高脂血症治療剤は、体内でコレステロールが作られる際に必要な酵素を抑制するHMG-COA還元酵素阻害剤が70%以上を占めている。「リピトル」（アステラス製薬）、「リパロ」（興和創薬、第一三共）、「クレストール」（アストラゼネカ、塩野義製薬）の実績が伸びており、市場拡大に大きく寄与している。

また、2007年に18年ぶりに発売された小腸コレステロール吸収阻害剤という新規作用機序の「ゼチーア」（バイエル薬品、MSD）は、HMG-COA還元酵素阻害剤との併用処方が進み需要が拡大している。

代謝系疾患治療剤

代謝系疾患治療剤は、糖尿病治療剤、糖尿病合併症治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、抗肥満剤を対象としている。糖尿病を中心にこの領域における生活習慣病患者は増えている。しかし、患者は食事療法や運動療法などを選択する傾向が高く、早期に薬物治療をはじめめる患者は限られる。メーカー各社は早期薬物治療に対する啓発活動を勧めている。

代謝系疾患治療剤市場の80%以上を占める糖尿病治療剤は、長期投与が必須であることから参入メーカーの注力度が非常に高く、新製品の発売が活発に行われている。また、他の薬剤との併用投与といった適応拡大などから、治療の選択肢が広がっている。

痛風・高尿酸治療剤は、従来品の実績が安定しているが、2011年前半に新製品の発売が予定されており、処

方の変化や市場の拡大が予想される。

解熱消炎鎮痛剤

解熱消炎鎮痛剤は、NSAID_s（非ステロイド系消炎鎮痛剤）・解熱鎮痛剤、ステロイド系消炎鎮痛剤を対象としており、外用剤は対象外である。NSAID_sは抗炎症、鎮痛、解熱などに幅広く処方されており、世界的にも処方頻度の高い薬剤の一つであるが、関節リウマチなどでは生物学的製剤などの新製品との競合で処方が限定的になってきている。ステロイド系消炎鎮痛剤は主に重症患者に処方される。副作用の懸念から処方は短期的で対象疾患も限られている。

解熱消炎鎮痛剤はNSAID_sの「セレコックス」（アステラス製薬）が実績を伸ばしているほかは、横ばい・減少で推移している製品が多い。解熱鎮痛剤はアセトアミノフェン製剤の処方が増えているものの、薬価が低いいため全体市場を押し上げるまでには至っていない。

血液関連薬剤

血液関連薬剤は、貧血治療剤、血液製剤・止血剤を対象としている。貧血治療剤は腎性貧血治療剤と鉄剤を対象としており、腎性貧血は透析患者の増加とその治療の長期化により治療患者が増えている。鉄欠乏性貧血も患者数が増えているが、治療患者の増加にはつながっていない。血液製剤は疾患適応拡大により治療患者が増えている。

貧血治療剤は、2010年5月に国内2番目となるバイオシミラー「エポエチンアルファBS注JCR」（日本ケミカルリサーチ、キッセイ薬品工業）が発売されている。血液製剤は、多くが使用の標準化が進んでおり、処方量が安定している。

バイオ医薬品のジェネリック

漢方製剤

漢方製剤は、内科、産婦人科、整形外科など幅広い診療科で処方され、漢方外来を置く病院や診療所も出てきている。「漢方治療における医薬品の適正な使用法ガイドライン」「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン2010」といったガイドラインが発表されており、また、近年では抑肝散（神経症、不眠症、小児夜なきなどに処方される漢方製剤）の認知症周辺症状への処方等、効果が注目される疾患、患者が増加している。

トップシェアのツムラの製品は、大学病院から診療所まで幅広く処方されている。漢方製剤をトータルにプロモーションして実績を伸ばしている。

<注目市場>

1. 糖尿病治療剤

糖尿病は、症状が重い患者の増加や罹患期間の長期化が進んでいる。また、患者は各年齢層で増加しており、他の生活習慣病との合併患者も多く、患者の多様化も進んでいる。治療患者の増加に伴い市場は拡大すると予想される。

2009年12月の「ジャヌビア」（MSD）、「グラクティブ」（小野薬品工業）の発売を皮切りに、各社から新たな作用機序の新薬、DPP-4阻害剤、GLP-1受容体作動剤が発売された。各社とも注力製品としており、今後も好調な推移が予測される。従来品とは競合もあるが、併用療法での適応拡大が図られており、承認後は併用処方が進み市場拡大に寄与すると予想される。

日本糖尿病学会の「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」は、2010年に診断時におけるHbA1cの積極利用と診断基準が改定された。合併症の予防を目的としており、それに向けた早期治療の促進が協調されている。早期治療が浸透すれば市場への影響は大きいと見られる。現在のガイドラインでは、DPP-4阻害剤とGLP-1受容体作動剤に対しては重視されていないが、今後、DPP-4阻害剤とGLP-1受容体作動剤の臨床試験の発表が多くなれば、ガイドラインで推奨される可能性もあり、市場に与える影響は一層高まると予想される。

2. 痛風・高尿酸血症治療剤

近年は食生活の欧米化や運動不足などによる発症の若年齢化が進んでおり、患者増加の一因となっている。早期治療が重視され始めていることから、治療患者の増加に伴う市場の拡大が期待される。しかし、実際治療を受けるまでに至らない患者が多いため、今後はメーカーや学会での痛風や高尿酸血症に対する啓発活動がより重要になる

と考えられる。

2010年まで新薬の発売が無い状態が続いていたが、2011年前半には帝人ファーマから「フェブリク」が発売される予定である。「フェブリク」は、尿酸生成抑制剤としては約40年ぶりの新薬である。トップシェアの「ザイロリック」(グラクソ・スミスクライン)も同じ尿酸生成抑制剤であるため、今後「フェブリク」との競合が予想される。一方、尿酸排泄促進剤「ユリノーム」(鳥居薬品)や酸性尿改善剤「ウラリット」(日本ケミファ)などは、「フェブリク」との競合よりは、併用処方での相乗効果が期待される。

痛風・高尿酸血症治療剤市場ではジェネリック医薬品の実績が多くなっているが、今後は「フェブリク」を中心とした展開が予測される

2010年に日本痛風・核酸代謝学会の痛風・高尿酸血症治療のガイドラインが8年ぶりに改訂された。メーカー各社は痛風に対する予防的措置、副作用の少ない薬剤の利用とそれらの併用処方など、ガイドラインに沿ったプロモーションを展開すると見られる。

以上

<調査対象>

高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤(糖尿病治療剤、糖尿病合併症治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、抗肥満剤)、解熱消炎治療剤(NSAIDs・解熱鎮痛剤、ステロイド系消炎鎮痛剤)、血液関連薬剤(貧血治療剤、血液製剤・止血剤)、漢方製剤

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

<調査期間>

2010年12月～2011年3月

資料タイトル:「2011 医療用医薬品データブック No.4」

体 裁 : A4判 284頁

価 格 : 160,000円(税込み168,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部

TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>